

Smoke gets in Monk's eyes

DAM 2017
Theater
ゲキダン・ダム

煙が
モンクの
目にしみる

2017年3月

23木thu 19:30 Start

24金fri 19:30 Start


25土sat 19:30 Start

26日sun 16:30 Start

(※開場は10分前)

BankART Studio NYK (「馬車道駅」横浜)

主催 : Presented by **DA・M**

助成 : 芸術文化振興基金 Supported by Japan Arts Fund Council 

本日はおいそがしいなか、ご来場ありがとうございました

出来事後のサッカーボール、笑うということ、上へ上へ。「紫の煙草の煙、歪んだフィードバックの響き」そしてワイエスが



描くクリスティーナ。「風景を描いている時、私は一つの場所に留まっていることはない。浮かび上がり、そして動き回る。」(Andrew Wyeth/画家) いくみ



故郷の貯水池に立つ霧、オンドル暖房の煙は母からの贈り物、彼が吸うタバコの煙、一言も愛について言わなかったわね？ あなたはどこに行くの？ 一体どんな靴下を履いて？ わたしは一度もあなたに

ありがとうの気持ちを言わなかった、田んぼの野焼きから上がる煙は父からの贈り物。ちょうちょ、ちょうちょ、飛んで行って、こっちに座って、立ち上がって、降りてきて、振り返って、羽を開いて、前へ、横に並んで、あなたはどこに行くの？ Hong



赤いスカーフ、白い紙、青いパケツと青いコップ、黒いベッド、意味が無いという意味への強い問いかけ、多元的であるということへの強い希望、かすかなモノを見のがしたくないという欲望、水煙、土煙、白い煙、赤い煙、茶色い煙、黒い煙、冬の日にあなたが吐く白い煙、あいたい、あいたい、追いかけて横浜、あなたが逃げる、港の船の汽笛に励まされ、狼煙のろしをあげにいざ出港。サキ

さっきまで遊んでた子供。朝まで寝てたベッド。昨日まで使ってた歯ブラシ。ジャングルジム。長靴。焦げた芝生。朝飲んだ牛乳のコップ。消そうとしても燃え広がり虚ろな空に煙が上がり続ける。私は記憶の街を歩く。私は記憶の街を描く。私は記憶の音を鳴らす。私は記憶の声を聞く。宮地



煙は、たくさんの言葉にならない言葉をつぶやきながら、灰から天に昇る死者達の魂のようだ。煙は、私たちの生きている場所にその影を落とす。理解され、応えがくるのを、待ちながら。

Lingna



彼女の手紙を燃やした煙、遠くの焚き火の煙、テレビの中でヘリコプターが墜落した煙、風が変わると一気に襲う。水だ。灰を叩く、舞い散る灰煙。けむにまかれて流されていく、ここはどこ？ 新鮮な空気が吸いたい。を見るとホッとする。煙なんかみたくない、震える記憶。煙に魅せられて我を忘れ、トカゲたちのしっぽを切った。切っても切っても生えてくる青いしっぽ。原田

それでも見る聴くそれともつぶやく 皺くちやの古い紙 それでも見る聴くそれともひつかく でも空はかけない動いているからかこうとすると動いてしまふ みるみる変わるみるみるうつろうひかりも雲も猛スピードで ふくらみささくれつついては切れ 畢竟それは動くものすべて畢竟この宇宙にあるものすべて 畢竟なんておかしな言い方 だから畢竟かけないかきよがない火のようにゆらめくその花さえも 幾重にもかさなりあう花びらの色は 赤い乱気流みたいな渦のかさなり 赤というよりむしろ紫がかかった薔薇色かもしれない いや赤でもない紫でもない薔薇色でもない その色の名はなんとよぶのかわからないから言いようがない それでも見る聴くそれともつぶやく 名もなき花の 名もなき色につつまれ..... 福田

人里の煙のことを人煙って
うんですね。知らなかった。
人の営みの煙。ユラユラと曇
れる空を指してゆく淡き煙よ
どこまでゆくか（中原中也）
おでかけしたいのです。風に
吹かれて。いずれ消える。で
もまたシレッとして帰ってき
て立ち昇っているかもしれな
い。「煙は透明な青空へと、
ゆらゆらとのぼってゆくわ」

野田



四肢と言う ネタが尽きるまで汚染し続ける 僕の心地
いい空間は、あなたの調和の瓦礫 煙を立てたんだ。

煙になったんだ。

灰と煙に引き裂いて炎を
起こしたんだ。灰はのた
れかす。煙は溶けた。炎
は意図を見失ったんだ。
笑えよ。国枝

1週間がたった / しかし昨日は / すでに 永遠だった か
えってこない日々は / 百日も千日も むこうで 煙になっ
ていた わたしは 煙がときどき / 火となり
すすり泣くのを聞いた 熱い地獄の涙が / マ
タの間を ゆっくりと流れ / 祖先の精の霊の
向こうへ / ハミングしていき / 虹となる
白石かずこ「聖なる淫者の季節」より 金子



瓦礫の風景の中にスコップが思い
浮かんた。煙とどう関係するの
か、蒸気機関車の炭をくべるス
コップ？ そんな漠然とした物だっ
た。そして、震災後、行方不明の
子供を捜し続けている父親の存在
を、改めて思い直すことへと気づ
かされる。「灰色の老いたる海よ
凍りついた炎のように叫ぶこの口
はスマイレ色の深い穴」その想いを
大切にしたい。中島



本作品に使用された舞台構成表と言葉テキストは
以下劇団HPにてご覧いただけます。

<http://da-m.art.coocan.jp/>



ごあいさつ

公演のごあいさつをどのように申し上げようか？
いつも迷う。本日の作品は昨年公演「すべては突
然やってくる」の続編として構想された。昨年を
言うなら“出来事との遭遇”、そして今回はその
“出来事後”という位置づけで昨年より創作が
始まった。ちょっと振り返ってみようかと、昨年
公演のパンフレットを見たら、図らずもすでに本
作の主題「煙」について書かれていた。以下、少
し長いがそれを引用する。

———毎回、公演に向かうときは、なんらかの高揚感
が生まれてくる。今回はふと気づくと、2002年にドイ
ツ・ハンブルグ公演（カンブナーゲル・サマーフェスティ
バル）に向かっていった時のそれとよく似ている。あの
とき、前年の「9.11」を目の当たりにした底知れぬ無力
感の中、表現をするという行為自体を自ら切り崩しな
がら、“今、ここに居続けること”だけを動機にも
がいていた。そして今、5年前の東日本大震災とそれに
引き続く福島原発事故。原発建屋からもくもくと上
がる黒煙・白煙。起こるはずがなかった「煙」、あの
ときも感じていた起こるはずない「煙」。その「煙」が
火種は違えど今世界中のあちこちで上げられはじめて
いるのだ。そんな今、舞台の立ち位置をどこに定めれ
ばいいのか？ そう強く問われている。・・・とりわ
け今回は、韓国からの他者を迎えることで、今、こ
こ、という「現在」が決して一つでないことがより鮮
明に意識される。刻々と進む時間の流れの中、遠近の
無名の生に焦点が合うもズレるも、それもひっくりめ
て多様な「現在」が見えてくればよい———

今日と同じ場所で行われたその公演からわずか一
年。なのに、あの時は目に見えていた煙が、今は
不可視の煙になってどこかしこすみずみにまで
“全体”を分厚く覆いはじめている。「和解」と
「寛容」だって？ たくさんの偽りの分かり合い
の隔てあいによる思考停止があちらこちらではじ
まり、機能不全の勃発がそこそこで黒煙を上げ出
している。きっとおれの体からだって同じ煙がで
ているに違いない。視界ゼロだ。火種はどこ？
抱えてしまった余計なお荷物は全部捨てよう。と
どのつまり残るのは近代がのけ者にしてきた身体
だけだ。ならばその身一つで、もがき、手探りし
て、突き抜けよう。“形なき形”を生成続けなが
ら、決して一つではない現在を今、ここに生き続
けながら、“複数個”のイシ/石/意志を持って
“孤独な抵抗”の狼煙を、むせび、涙しながら
も、そこそこで、上げる。きっと誰かが見つけて
くれるに違いない。ゴホッ、けむい、むせぶ。い
～や、おれはただ「恋の炎が消えて、その煙で、
涙がでてるだけなんだ」 大橋

DA・M 新作公演『煙が モンクの 目にしみる』

DAM 2017
Theater
ゲキダン・ダム

共同構成・出演 Co-composed & Performers

中島彰宏 Akihiro Nakajima
原田拓巳 Takumi Harada
国枝昌人 Masato Kunieda
湯時康 Tong Sze Hong
野田貴子 Takako Noda
宮地成子 Nariko Miyaji
홍승이 Hong SeungYi
于玲娜 Yu Lingna
大橋いくみ Ikumi Ohashi
サキ Saki

演奏 Music

金子雄生 Yusei Kaneko

テキスト協力 Co-writer

福田光一 Koichi Fukuda

舞台美術

吉川聡一・山崎久美子

共同構成・演出 Co-composed & Directed by

大橋宏 Hiroshi Ohashi

通訳・翻訳 서원오 Seo WonOh

照明 阿狩屋

舞台監督 原田拓巳

協力 霜村和子／小椎尾久美子

楊博／入船魔子／今井あゆみ

玉木康晃／長野由利子

小澤理史、建築前崎

宣伝美術 H2Oデザイン

記録写真 荻原楽太郎／中村和夫

記録ビデオ たきしまひろよし PLASTIC RAINS

感謝 南越谷メンタルクリニック 飯島毅

新生産業 (株)

Playground SHIIM／Baek,Dea-Hyeon

Experimental Theater BAKK

助成 日本芸術文化振興基金

Supported by Japan Arts Council



●会場 Venue

BankART Studio NYK 3B Gallery

●チケット Ticket

当日 door 4000円

前売・予約 adv. 3500円

学生・外国籍 2000円

students/foreigners

●予約・問合せ Reservation & Info.

070-1232-1986

E-mail : dam@mbh.nifty.com



企画・制作 Presented by **DA.M**

<http://da-m.art.cocan.jp/>

未知への冒険 新人募集 経験不問 要意欲 いつでも歓迎 拠点劇場：プロト・シアター



アジア・ミーツ・アジア Asia meets Asia

＜島根（松江）公演－東京公演＞2017年9月／＜釜山街頭公演11月＞

～Shimane(Matsue)-Tokyo tour in September / Busan in November. 2017

アジア6都市共同創作 Asia 6 cities collaboration project

・・・昨年9月。横浜BankART NYK Studioで行なわれ大好評を得た本企画＜一夜連続上演：千夜一夜物語／Carrying Stone＞。“Carrying Stone”は韓国釜山の文化助成を得て街頭公演を実施、大きな反響を呼んだ。今回は国内にてまた新たな展開を目指すとともに、釜山の魚市場にて「千夜一夜」の街頭公演を予定。

賛助会員募集 アジア・ミーツ・アジアでは、アジア内陸部を目指しての舞台芸術交流活動を目指します。ご支援・ご声援のほどよろしくお願いいたします。（一口年間5000円 詳細は下記HPにて）

アジア・ミーツ・アジア：<http://ama.world.cocan.jp/>

共同構成・出演：

中島彰宏 Akihito Nakajima

2000年劇団DA・MIに入団。以来国内外の公演に参加。アジア・ミーツ・アジア での共同作業も継続。、ここ数年釜山の劇団“SHIIM”との交流を深める。他、ソロ公演、美術・映像アーティストとのコラボレーションなど。

宮地成子 Nariko Miyaji

熊本市出身。劇団黒テント('02～'16年)を経て現在フリー。現代口語劇、パフォーマンスアーツなど、東京を拠点に幅広く活動。大橋演出の「荒馬の旅」企画(主宰:田村義明)にも参加。'76年生まれ、1児の母。

国枝昌人 Masato Kunieda

2000年ころ踊り始め、ダンスカンパニー Nomade's 参加。その後主にモダンダンスの作品に多数参加。現在、ダンスコント・撫肩GUYDANCEメンバー。

野田貴子 Takako Noda

役者。フリー。ぽっかめろん、龍昇企画、果実の会、アジア・ミーツ・アジア、DA・M企画公演「うたたね快樂宴〜河童乃相談」などに出演。「それ、違うんです」では共同企画も。本公演には20年振りの参加。

原田拓巳 Takumi Harada

1984年舞踏家宇野萬氏に師事。1990年からソロ活動開始。「DA・M」、「開座」、「アジア・ミーツ・アジア」の作業にも参加。抵抗、清浄、猥雑、暴力など人間の心を揺さぶる事象・感覚を素材に身体表現を作る。

サキ Saki

60越娘・私と80半ば母&1歳半若雄猫、二人と一匹暮し。最近、朝起きて台所に行くと、薬缶が湯気を吹いてヒンヒンいつてる。お湯沸いてるよ〜と言ったら、自分で沸かしたくせに何言ってるの〜と母。真実は湯煙の中。

洪承伊 Hong SeungYi, 釜山 Busan

労働活動家を経て2000年より演劇開始。2008年劇団‘Shiim’創設。近年は台湾の王墨林の作品、2012年よりDA・MIに参加。以降、アジア・ミーツ・アジア企画・参加、渡部美保企画公演参加、ヒグマ春夫共同公演など。

湯時康 Tom Sze Hong, 香港 Hong Kong

1981年より民主化運動とともに人民劇場に参加し舞台活動に関わる。1998年Clash創立。活動は批評的で、即興、街頭劇、フォーラムシアター、車椅子

子ダンスなど多岐にわたる。Asia meets Asia創立メンバー。

于玲娜 Yu Lingna, 上海 Shanghai

上海にて精神療法士として働く傍ら、上海にて革新的活動を率先するGrass Stageにて5年間活動をする。また2012年よりAsia meets Asiaに参加。昨年よりDA・M研修にて東京に滞在。初のソロ活動も開始。

大橋いくみ Ikumi Ohashi

東京藝術大学大学院油画科在学。パフォーマンス・アート作品を制作、研究。2014年XYZcollective、2015年プロシアターにてソロパフォーマンス。

音楽演奏 music : 金子雄生 Yusei Kaneko

10代の頃よりトランペット奏者として多くのセッションバンドに参加。あらゆる第三世界の旋律とリズムを取り入れた“NEW JAZZ AGE”として話題を呼び、以降 国内外問わず 独自の演奏活動を繰り広げている。